

医療的ケア児等支援センター 支援体制と取組

長野県医療的ケア児等支援センター いきあう
副センター長 亀井智泉



長野県医療的ケア児等支援センター

いきあう

医療的ケア児等支援センター 愛称: **いきあう** の体制

信州大学医学部附属病院信州診療連携センター医療的ケア児等支援部門

設置根拠：医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律

センター長 信州大学医学部小児医学教室教授 中沢 洋三 先生

副センター長 信州大学医学部小児医学教室助教 三代沢幸秀 先生

信州大学医学部附属病院 特任助教 亀井智泉

看護師 一ノ瀬晴香

事務(兼務) 洞 佳代

- 令和4年4月から3年間、県庁障がい者支援課内にて「直営」のセンターでしたが、令和7年4月から信州大学医学部附属病院に事業委託されました。
- 少人数ですが圏域等医療的ケア児等コーディネーターさんたちと共に地域を耕していきます。

R7年度から信州大学附属病院信州診療連携センターに事業委託 より地域に近いところで支援体制を強化します

長野県

医療的ケア児等支援連携推進会議

長野県医療的ケア児等支援センター

＝診療連携センター医療的ケア児等支援部門

小児科医：センター長・副センター長

専任職員：副センター長（特任助教）、看護師（助産師・保健師）

総合的な後方支援

- ・圏域Coからの相談への対応
- ・地域支援体制づくりへの助言
- ・困難事例へのアウトリーチ支援
- ・人材育成と資源開拓
- ・各圏域の状況や課題の把握
- ・好事例等の情報発信

発達支援

相談支援専門員

圏域Co

かかりつけ薬局

訪問診療医

訪問看護

学校職員

圏域の支援体制の中核

- ・個別支援チームからの相談への対応
- ・チーム体制構築及びチーム内調整への支援
- ・個別課題や多職種連携等に対する助言
- ・地域課題の抽出、地域資源等の情報発信
- ・特別支援学校センター的機能との連携

圏域Co※

連携

個別支援
チーム
医ケア児
等とその
家族

個別支援
チーム
医ケア児
等とその
家族

※圏域又は市町村で配置

圏域医療的ケア児等コーディネーターの配置状況

圏域	R7年度（5月1日時点）の配置状況	色付きはオフィシャルに配置
佐久	基幹相談支援センターに看護師を配置	
上田	児童発達支援事業所の相談支援専門員、看護師 機関相談支援センターの相談支援専門員	
諏訪	基幹相談支援センターの相談員(保育士)が兼務	
上伊那	各市町村の担当課保健師が対応	
飯田	こども発達センターに配置（相談支援専門員、看護師）	
木曽	基幹相談支援センターに兼務の担当者配置	
松本	【松本市】インクルーシブセンターに保健師配置　【朝日村】担当課の保健師 【山形村】担当課保健師、こども家庭センター社会福祉士 【塩尻市・安曇野市】担当課の保健師が兼務、 【麻績村】主任相談支援専門員　他の地域は未定	
大北	各市町村担当課で対応	
長野	【千曲・坂城地域】基幹相談支援センター長が兼務 【須坂市・信濃町・飯綱町・小川村】担当課が対応 【小布施町・高山村】教育委員会が対応	
北信	基幹相談支援センターの保健師・相談支援専門員を配置	

医療的ケア児等支援センターの実績(開設～7月末)

相談対応(新規相談件数)※R7年度は延べ数

相談内容	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
保育所・学校の体制整備	23	30	52	16
制度や事業に関すること	17	26	38	22
圏域・職種間の連携体制	14	2	0	10
レスパイトに関すること	13	0	3	0
困難事例に関すること	13	11	15	12
長野県の情報が見たい	13	9	3	2
災害対策	12	8	12	5
関係機関との連携	10	12	6	6
看護師確保	9	4	1	0
看護指示書取得について	8	6	2	0
傾聴してほしい	6	3	1	1
医ケアCoの配置・業務	5	0	5	1
卒業後の居場所	4	4	5	1
その他	34	10	8	2
合計	181	125	151	相談件数 51

アウトリーチ

行先	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
行政(教委含)	9	5	25	8
学校・保育所	24	29	20	10
事業所	13	6	13	0
協議の場	47	43	24	14
ケース会議・家族会	12	8	18	4
研修・講演	36	29	30	14
その他	14	11	23	6
合計	155	131	153	56

人材育成(R7年度)

医療的ケア児等支援人材育成研修	66名修了
医療的ケア児等コーディネーター研修	37名修了
あそびクニック=災害対策・余暇の充実	41名参加
9/19(金) てんかんの研修会	
10/25(土) 胃ろうと半固形食の時間短縮法	
11/9(日) シンポジウム ～成人後の余暇の充実を求めて～	

スーパーバイザー医師派遣
(R7年度)

圏域	内容
長野	学校訪問
千曲・坂城	学校訪問
佐久	研修指導
全県対象	研修講師
飯伊	会議出席

これまでの相談、アウトリーチから見えてきた課題

① 県立こども病院等高度医療機関からの退院支援

地域生活支援の見える化（ご家族が「放り出された」と感じないように、退院前から地域の支援とつながる仕組みづくり）

② 学校・保育園での医療的ケア

「チーム学校」体制構築のため、教員（保育士）と看護職の相互理解の推進

③ 災害対策

- ▶ 安否確認の情報共有の流れの構築
- ▶ 効果的な電源確保
- ▶ 「インクルーシブ防災」のための「ご近所さんへの啓発」

④ 成人後のQOLの向上

命と健康を守りつつ社会の中で暮らし、充実した人生を送るための支援

令和7年度の医療的ケア児等支援センターの重点的な取組

- ◆ 卒業後のQOL向上のための地域包括ケア体制の充実、中でも生涯教育・余暇活動、住まいの選択肢の充実
- ◆ 県立こども病院からの退院支援＝退院前から地域とつながり、医ケア児等コーディネーターを中心にした多職種連携で受け入れ、支える体制を各圏域で可視化する
- ◆ 学校看護と特別支援教育の専門性の相互理解促進
- ◆ 県社協との協働による市町村の災害対策の後方支援

もちろん

- ◆ 相談対応
- ◆ アウトリーチによる支援者支援
- ◆ 新しい支援資源の開拓、開発
- ◆ 情報の収集と発信 …等にも引き続き取り組みます

圏域等の医療的ケア児等コーディネーターさんをはじめとする
多様な機関の多様な専門性を持つ支援者が集い、
情報交換とエンパワーメント、最新の知見を得られるように。

全県の支援ネットワークの基盤となることを目指します

引き続きよろしくお願いいたします。

メールアドレス

ikea-soudan@shinshu-u.ac.jp



長野県医療的ケア児等支援センター

いきあう